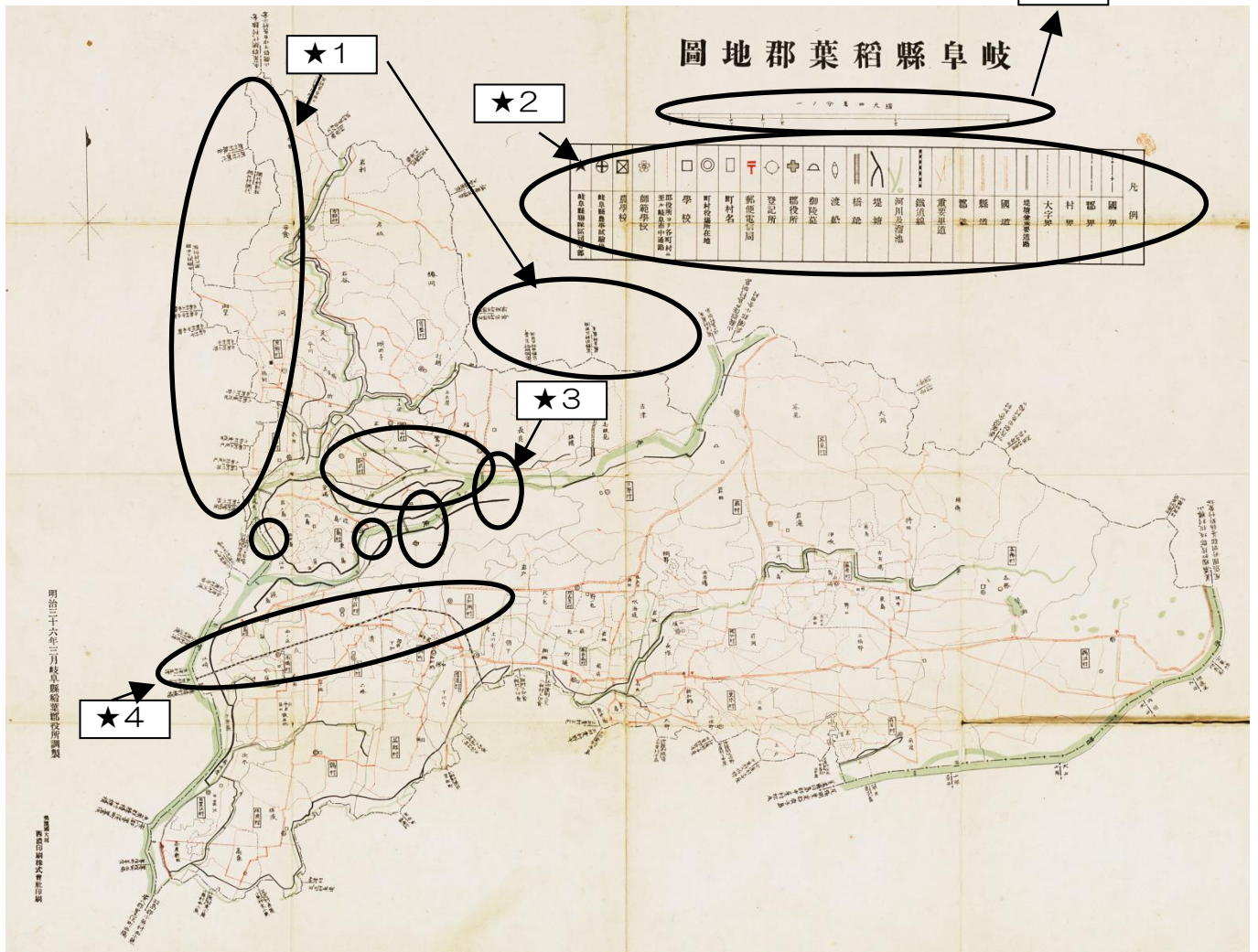


授業で使える当館所蔵地図

No. 39 『岐阜縣稻葉郡地図』
 発行年：1903（明治36）年
 サイズ：52×69cm
 作者：稻葉郡役所（調製）



【解説】

稲葉郡は岐阜県の南部にあって、現在の岐阜市と各務原市を合わせた区域である。1897（明治30）年に行政区画として発足した。羽島・安八・本巣・山県・武儀・加茂の6郡と愛知県の一部と接している。稲葉郡の面積は、171平方キロメートルである。

地図中には、できて間もない地図記号や条里制の単位が縮尺で表されており、現在の地図に近い部分とそうでない部分が混在した地図となっている。また、岐阜市の変遷を知ることができる。

★1 岐阜市への合併

現在の岐阜市は、稲葉郡、山県郡、本巣郡の一部を合併している。岐阜市の北西部に位置する、合渡、七郷、西郷、網代は当時、合併以前であるために、この地図に入っていない。また、山県郡であった岩野田、三輪も同様に入っていない。山県郡、本巣郡は現在も山県市、本巣市として残っている。

表1 岐阜市制施行時の合併町村一覧

合併地域
岐阜市米屋町、坂町、万力町、白木町、常盤町、笹土田町、福町、松屋町、電石町、末広町、大和町、中竹屋町、上竹屋町、釜石町、希屋町、木戸、加和屋町、魚屋町、上新町、久屋町、中新町、韓屋町、藪屋町、大工町、甚衛町、珠城町、間之町、加茂町、相生町、藤町、矢島町、栄町、木造町、堀江町、若松町、上ヶ門町、七曲町、車之町、蔵治屋町、下新町、下大桑町、中大桑町、上大久和町、西材木町、東材木町、北今町、上今町、中今町、下今町、逢日町、伊奈波神社境内
小黒村
今泉村
富茂登村
稲東村
上加納村の内
字町屋、字金岡、字西原敷、字高敷、字柳ヶ瀬
字神室ノ内金神社裏作道以東
字長住ノ内鉄道線路以北

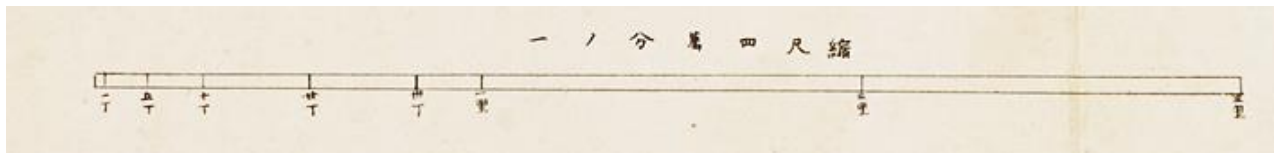
岐阜市制施行後の合併 (単位: kmf)

合併年月日	合併地域	合併面積	合併後の面積
明治36.4.1	稲葉郡上加納村		1005
明治6.4.1	稲葉郡本谷村	247	1874
明治7.7.1	稲葉郡三井村	622	3084
明治9.12.5	稲葉郡西郷村	701	3785
明治10.6.15	稲葉郡三井村	352	4136
明治10.6.15	稲葉郡山田村	319	4455
明治15.2.11	稲葉郡加納村	225	4681
明治15.2.11	稲葉郡西郷村	200	4881
明治15.2.11	稲葉郡山田村	408	5289
明治15.7.1	稲葉郡北長森村	714	6003
明治15.7.1	稲葉郡本谷村	254	6257
明治15.7.1	稲葉郡西郷村	820	7077
明治24.7.1	山県郡岩野田村	961	8038
明治25.12.10	稲葉郡西郷村	771	8809
明治25.12.10	稲葉郡山田村	1481	10290
明治25.12.10	稲葉郡西郷村	524	10814
明治25.6.20	稲葉郡西郷村	349	11163
明治25.6.20	稲葉郡山田村	475	11638
明治25.6.20	本巣郡上郷村	367	12005
明治25.6.20	本巣郡西郷村	457	12462
明治25.12.10	稲葉郡山田村	443	12905
明治30.2.11	稲葉郡西郷村	375	13280
明治30.2.11	稲葉郡山田村	339	13619
明治33.4.1	稲葉郡西郷村	374	13993
明治33.4.1	稲葉郡山田村	153	14146
明治34.4.1	本巣郡合渡村	501	14647
明治36.4.1	山県郡三輪村	2233	16880
明治38.4.1	本巣郡網代村	1268	18148
昭和44.2.1	本巣郡本郷町大字西山地区の一部	159	18307
平成10.10.1	武儀郡七ヶ岡町編入	▲1,098	19405
平成18.1.1	岩手郡神宮町	777	20182

★2 地図記号や縮尺表示の違い

★	⊕	⊗	⊗	□	○	□	〒	○	+	△	◐		λ												凡例
岐阜縣聯隊司令部	岐阜縣農事試驗場	農學校	師範學校	郡役所 至ル岐阜市各町村ニ 至ル岐阜市中通路	學校	町村役場所在地	町村名	郵便電信局	登記所	郡役所	御陵墓	渡船	橋梁	堤塘	河川及溜池	鐵道線	重要里道	郡道	縣道	國道	堤塘兼重要道路	大字界	村界	郡界	國界

地図記号が使用されているが、地図記号が使い始められたのは、明治20年代ということもあって、本地図がおよそ10年後に作成された。現在の国土地理院によって記号化されたものと違うものもいくつかある。例 学校 役所など



4万分の1の縮尺図である。縮尺表示が現在とは違い、丁・里の表示となっている。メートル表示となったのが、メートル条約加入後の1891（明治24）年であるが、本地図はおよそ10年後に作成されたということで、馴染み深い丁・里を使用したのだと考えられる。

★3 橋と川

古川と古々川がある。たびたび水害が起こっていた。則武村や島村は長良川，古川に挟まれ水害に悩まされていたことが想像できる。

明治時代には、長良川にかかる橋は、長良橋と忠節橋のみとなっている。その代わりに、渡船が長良川にも何箇所もみられる。橋が少ない分、渡船が発達していたと考えられる。現在、「小紅の渡し」として1ヶ所だけ残っている。

★4 東海道本線

明治時代の鉄道網は国鉄の東海道本線のみとなっている。東海道本線が全線開通したのが、1889（明治22）年となっている。岐阜駅の位置がなく、現在の名鉄岐阜駅付近にあった。さらに市内電車も開通しておらず、当時の交通が未発達であったことがうかがえる。市内線は明治末期，高山線や名鉄線は大正になってから発達している。

【用語について】

- ・稲葉郡→金華山の旧名が稲葉山であり、岐阜城も山に由来して稲葉山城と名付けられていた。そのため、名称をとって稲葉郡と名付けられた。
- ・条里制→日本において、古代から中世後期にかけて行われた土地区画（管理）制度。条里の基本単位は約109m四方の正方形である（菱形や長方形の場合もある）。古代日本では約109mは1丁（=60歩）に当たり、約109m四方の面積も同様に1丁と呼ばれていた。
- ・小紅の渡し→江戸時代に始まった渡り船。現在も残っていて岐阜市一日市場と岐阜市鏡島を結ぶ。

【活用の例】小学校社会科3年生「わたしたちのまち みんなのまち」及び5年生「低い土地の暮らし」で活用できる。

○明治時代の岐阜市周辺を知ることができる。

→明治時代に誕生した岐阜市への変遷を知ることができる。また、行政区域の違いが分かる。郡・村 など。

○当時の地図記号や縮尺表示を知ることができる。

→国土地理院が表示している地図記号と違うものや、条里制の名残として縮尺が丁や里表示になっている。

○当時の交通手段を知ることができる。

→長良川にかかる橋（長良橋，忠節橋）や橋の様子が分かる。また、橋の少なさを補うために渡り船が活用されていたことが分かる。

鉄道発達の変遷を知ることができる。

○治水工事の以前の様子を知ることができる。

→古川，古々川の存在や，島・則武付近の水害を想像することができる。

【参考文献】

- ・私たちの岐阜市 岐阜市小学校社会科研究会 ・岐阜市民のあゆみ 市民のあゆみ展実行委員会